

先生の推し本 第3回

2022年1月13日～4月末

テーマ わたしを・なした・本たち(とカルタ)

小谷真男先生(生活科学部人間生活学科・生活社会科学講座)

「推し本」とのことだからテーマは「②個人的な興味・関心からの推薦図書」を迷わず選択し、思いつくまま候補を挙げ始めたら際限がなくなってきた。何の選択基準もなく直観で10点に絞ったら以下のような結果となった。あらためて眺めてみると『東洋の理想』も『いのちの初夜』も、あれもこれも欠けているではないか。もう一回同じ作業をしたら全然違うリストになるかもしれない(笑)。しょせん人生とは思わぬ方向に転がっていくパラレルワールドみたいなものだとあらためて思う。

書名 / 著者等. (出版社, 刊行年月, シリーズ名)	請求記号	配架場所
素敵な仕事 / デイヴィッド・ロッジ著; 高儀進訳. (大和書房, 1991.10)	933/L81	図書館オープン書庫(一般図書)
<p>大学人が気晴らしに小説でもと思うなら、D.ロッジのキャンパス・ノベル3部作『交換教授』『小さな世界』『素敵な仕事』を手取るに如くはない。あえて一冊選ぶとすれば本書ということになるが、3部作を通して大学教員という滑稽な人種とその nice work が辛辣極まりない風刺にさらされ、たとえば「テニユア審査」をめぐる英米間の(ついでに日本との)あまりの落差に抱腹絶倒させられる。さらなる続編『ベイツ教授の受難』も、ある個人的事情により忘れがたい作品である。</p>		
夢判断 / [フロイト著]; 高橋義孝訳. (所収: フロイト著作集 2. (人文書院, 1968))	140.8/F46j/2	図書館オープン書庫(一般図書)
<p>高校生のころ新潮文庫版上・下二冊を夢中になって読み耽り、毎日「夢日記」をつけていた(何か人生の岐路に立たされたときは、見た夢の記録を自分で解釈して方針を決めていた)。</p>		
無関係 / 河野多恵子著. (所収: 河野多恵子全集第7巻. (新潮社, 1995.5))	918/Ko76/7	図書館一般図書
<p>吉祥寺の古書店で装丁が綺麗だったので何気なく手に取ったこの本(中央公論社刊の単行本)でなぜか河野多恵子がすっかり気に入り、のちに全集まで揃えて全部読んでみたがやっぱり一番はこれ。なぜこの小説がそんなに好きなのか今だにわからない。</p>		
時間の比較社会学 / 真木悠介著. (岩波書店, 1997.11. 同時代ライブラリー)	080/D83/325	図書館一般図書
<p>私の学生生活は、1982年4月に入学すると同時に遭遇した本書(1981年11月刊行の単行本)によって決定的に方向づけられることになった。その意味で青春の一冊である。</p>		
ダブリンの市民 / ジョイス作; 結城英雄訳. (岩波書店, 2004.2. 岩波文庫)	933/J85	図書館文庫・新書
<p>卒論で『ユリシーズ』を選んだ母はアイルランドに行くのが生涯の夢だったが、病気のため、ついに日本から一歩も出ることなくこの世を去った。私自身は本書でジョイスに感服し、本学のサバティカルで1年間イタリアに滞在した際に母に代わってダブリンを訪れ、ジョイスの足跡を辿った。ついでにトリニティカレッジの学生シアターで観たベケットの「ゴドー」は(一言もセリフはわからなかったが)素晴らしかった。その夜はもちろんギネスでアイルランドに乾杯。</p>		
子どものからだとことば / 竹内敏晴著. (晶文社, 1983.9. 犀の本)	371.45/Ta67	図書館オープン書庫(一般図書)
<p>学部生時代の前半はもっぱら大塚・小石川エリアで子ども会活動(氷川下セツルメント)に精を出していた。子どものからだは私にとって無意識のことばのようなもの。ちょうどそのころ出会った本書に心奪われ、勢いで同じ著者が書いたものは『ことばが劈かれるとき』をはじめ、ほとんど全部読み尽くした。あとでご本人に実際に会ったら、割に普通のおじさんだった。</p>		

書名 / 著者等. (出版社, 刊行年月, シリーズ名)	請求記号	配架場所
幻聴妄想カルタ / ハーモニー編著. (医学書院, 2011.11)	369.2/H26	図書館地下書庫(館内利用)
超. 幻聴妄想かるた / 新澤克憲, 就労継続支援B型事業所 ハーモニー [著]. (やっところ, 2018.6)	369.2/H26/2	図書館地下書庫(館内利用)
<p>不可思議な、あまりに不可思議な、統合失調症の世界を知るきっかけとなったカルタ。学生を連れてハーモニー(就労継続支援[自称「なんちゃって」]B型事業所)に押しかけ、統合失調の人たちと一緒にカルタで遊び、ついには自分たちでもカルタを作ったりした。ある年の卒業生たちは、「小谷ゼミ卒業記念カルタ」を作って贈ってくれた。</p>		
ツァラトウストラはこう言った / ニーチェ著 ; 氷上英廣訳. (岩波書店, 1967. 岩波文庫)	134/N71/1-2	図書館文庫・新書
<p>研究所助手時代の2年間にわたるイタリア留学中の夏休みにドイツに出かけた。着いてすぐにハンブルグで購入したレクラム版原文と照らし合わせつつ氷上英廣訳でツァラトウストラを読み継ぎながらドイツ中を回った。本から顔を上げて現実のドイツ人を見たら、ニーチェの揶揄した通りの人たちが目の前にいて何だか可笑しかった。</p>		
現代思想1996年4月臨時増刊号 総特集＝ろう文化 - 青土社. (青土社, 1996)		図書館雑誌書庫1~3(一般雑誌)
ろう文化 / 現代思想編集部編. (青土社, 2000.4)	369.2/R55	図書館リベラルアーツ資料(LA4)
<p>同じく研究所助手時代、所内のサークルで漫然と手話を学んでいた私に、この『現代思想』臨時増刊号「総特集・ろう文化」は「眼からウロコ」的な衝撃を与えた。後年のLA演習「手話学入門」開設に至る原点。</p>		
蒼氓 / 石川達三著. (所収: 石川達三作品集第1巻. (新潮社, 1972))	913.6/I76s/1	図書館オープン書庫(一般図書)
<p>学会参加と協定校開拓の目的でブラジルに出張した際、アマゾン(森林のほうじゃなくて)で買い求めておいた秋田魁新報社刊の単行本を機内で読んだ。神戸を出航し、インド洋をわたり、喜望峰を経由して南米大陸へ至る航海の描写は壮絶の一語。そして、戦前のブラジルやハワイへの移民が「棄民政策」という一面を持っていたことがよくわかる。第1回芥川賞受賞作。</p>		